

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 愛知県立豊橋聾学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 441-8141

愛知県豊橋市草間町字平東 100 番地

E-mail soumu@toyohashi-sd.aichi.ed.jp

Website _____

児童生徒数 男子 34 名 女子 35 名 合計 69 名

児童・生徒の年齢 3 歳 ~ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、聴覚に障害のある幼児児童生徒のための特別支援学校で「ことば豊かに強く明るく」を校訓としている。聴覚障害のある幼児児童生徒にとって ESD を社会とのつながりと捉え、ESD の実践を通して視野を広げ、社会の中で主体的に活動できる態度の育成を目標とした。

具体的には、幼稚部、小学部、中学部、高等部それぞれの発達段階や実態に応じて①伝統文化の継承に係わる活動、②環境教育に係わる活動、③国際教育に係わる活動、④人権に係わる活動を行った。

① 伝統文化の継承に係わる活動

小学部では、小学部 4 ~ 6 年児童 11 名がクラブ活動として、和太鼓と奥三河に伝わる舞に取り組み、伝統文化の継承に努めた。また、障害者理解の啓発活動として年間 2 回、学校外へ向けた発表を行った。



② 環境教育に係わる活動

幼稚部では、畑で育てた夏野菜を収穫し、それを使った「やおやさんごっこ」をしている。キュウリやナスの大きさを見比べたり、ミニトマトの色を見比べて、より良いものを選んで、かごに入れたりする様子が見られるようになった。

また、アゲハチョウの幼虫を観察し、羽化する様子を食い入るように見たり、羽を広げて飛び立っていく様子を真似たりする幼児もいた。

中学部では、野外活動で海岸の清掃を行い、地域のボランティア団体の方の「海について」の講話を聞いた。海岸でのゴミが海岸に捨てられたものではなく、三重県や岐阜県からも流れ着いていることを聞き、とても驚いていた。また、捨てられたゴミはなくなることはなく、海の生き物に影響を与えることを知り、自分たちが何をすべきか、深く考えることができた。



③ 国際教育に係わる活動

高等部では、カナダの姉妹校であるマニトバ聾学校訪問の前に生徒が写真付きの自己紹介カードを作成し、5名の生徒が持参して紹介を行った。

○マニトバ聾学校との交流派遣後の校内報告会

高等部向け：前半は派遣生徒が写真を見せながら交流の体験を説明し、後半は派遣生徒への質問時間とした。食事のことなどのカナダでの生活についての質問が多く挙がり、活発な報告会となった。

中学部向け：中学部の国際理解交流に高等部生徒が1名参加し、カナダでの体験を話した。中学部生徒は興味をもって話を聞いており、質問時間が足りなくなるくらい多くの質問が挙がった。

小学部向け：総合的な学習の時間や朝の時間を使い、小学部への発表の準備を進めた。硬貨の実物を見せたり、クイズを交えたりして飽きない工夫をした。外国へ興味をもち、先輩たちのようにカナダへ行ってみたいと思うことが学習のモチベーションになることを期待している。



④ 人権に係わる活動

今年度本校では、コミュニケーションの自信を高め、将来にわたりよりよい人間関係を築くことができることを目指し、人間関係に悩み始める中高等部を中心にソーシャルスキルトレーニング（以下SST）や認知行動療法を通して相手への伝え方や自分の気持ちの切り替え方などを学んだ。普段の授業の中でもSSTを取り入れることで、体育の授業や部活動の中で相手を思いやり励まし合ったりする言葉掛けが増え、友達とのよい関わり合いが多く見られるようになった。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自ら考えて工夫し、行動する力)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 朝のSTまでの時間 地域のイベント)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての活動は、「総合的な学習の時間」を核として自立活動や行事、クラブ活動、生徒会活動、委員会活動などで取り組んだ。
また、ESDを実践していくためには教科等の中で取り組むことが不可欠と考え、中学部では今年度ESDカレンダーを作成した。どの単元が「環境教育」「人権」「国際教育」に関するのかを整理したことで、各教科の担当者がそれぞれの単元において生徒の生活や今まで取り組んできた活動をESDと結びつけ、生徒が自分の考えをもてるような授業づくりを進めることができた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

幼稚部、小学部、中学部、高等部のそれぞれの発達段階や状況に合わせて部毎で取り組んでいる。具体的には管理職間で共通理解を図り年間計画に入れるようにした。また文化祭や発表会などで各部の活動の様子を広く知らせることにより、教員はもとより幼児児童生徒が上の部へ進学するに当たって各活動に見通しがもてるように工夫して取り組んでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評議委員会で活動の一部を紹介したところ、聾学校のことをアピールするのに地域住民との合同活動を工夫し接する機会を増やすとよいのではという御意見をいただいた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

小学部では、和太鼓の演奏を市のイベントで披露し、障害者理解の啓発を行った。聾学校の存在を広く一般の方に知っていただくきっかけとなっており、出演の依頼も増えてきている。

また、全国特別支援学校 ESD フォーラム、東海地区ユネスコスクールフォーラムでは教員による発表をした。全国唯一の聾学校のユネスコスクールとしての取組を知ってもらうことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

ESD コンソーシアム愛知が主催する全国特別支援学校 ESD フォーラムや東海地区ユネスコスクールフォーラムに参加、発表をした。また、ESD コンソーシアム愛知の事業によりユネスコスクール全国大会(大牟田)に参加させていただいた。他の小中高等学校や特別支援学校の取組を知り、本校の活動をあらためて考えるきっかけとなった。

また、豊橋ユネスコ協会とも連携をとり、ESD パスポートを活用したボランティア活動の推進を行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

フォーラム等を通して小中高等学校や特別支援学校と教員間での情報交換を行っている。また、本校は県立学校ではあるが市教委とも連携をとり、市内小中学校の活動の様子等の情報を提供していただいている。他校との児童生徒の交流については、居住地校交流において個々の児童生徒が居住地域小中学校の ESD 活動に参加することはあるが、学校間では特に行っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

中学部では、不登校気味だった生徒が生き生きと清掃活動に取り組み、遅刻や欠席日数が減り、学習にも意欲的に取り組むようになった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 30 年度は、「持続可能な社会づくりのために、自ら考え主体的に社会とかかわろうとする幼児児童生徒の育成」を活動理念とし、①伝承文化の継承②環境教育③国際教育 の3つの柱を中心に活動を進めていく。具体的には、地域での和太鼓の発表、野外活動における清掃活動やエコクッキング、カナダマニトバ聾学校との間接的な交流などを継続して行うことを予定している。

また、ESDの推進に向けて、校内の体制を整備していく予定である。新学習指導要領の理解浸透と合わせて、教育課程委員会の中に位置付け、個々の教員へのESDの理解を深めるようにしたい。加えて、学校だよりや掲示物などで、保護者へのさらなる啓発を図っていきたい。